

ずいそう

## 私のガーデニング「土里居夢園」

横澤 圭一郎



私は、11年前に農地が1200坪、宅地が約150坪の土地を手に入れました。その土地には、畑と果樹園と茶畑、姫沙羅林、バラやつつじ、ハーブ、芝桜等が植えてある約500坪のガーデンがあり、その中にシンボルツリーとなる楠と大島桜の大木がそびえたっていました。私はこの土地を土の里に住む夢の楽園として「土里居夢園」と名付けてガーデニングに励んでいます。

なぜ、男の私がガーデニングに夢中になっているかと問われることがよくあります。明解な答えにはありませんが、1つは幼少の頃、花が好きだった祖母と一緒に草花の手入れをしたことが体に焼き付いているのかもしれない。今ではガーデニングが3度の飯より好きになっています。

ですから、理想の土地を手にしたことで、ガーデニングに対する気持ちがより強くなり、ガーデニングが好きな方ならだれでも知っているターシャチュエダのナチュラルガーデンやイギリスのイングリッシュガーデンに刺激され、本格的にガーデニングを始めたのです。

約500坪のガーデンは、すでに植えられている草木を有効に利用することにしながら、いくつかのゾーンに分けました。主なゾーンは、ローズガーデン、ハーブガーデン、ロックガーデン、牡丹・芍薬園、つつじ園、アヤメ園、アジサイ園、姫沙羅林があり、それ以外に芝生や敷石・枕木を敷いて所々にテーブルと椅子、ベンチを置いて休憩する場所を作っています。また、

棚、アーチ、オベリスク、パーゴラなどを設置して立体的なガーデンにしました。

ガーデンの手入れは、ほぼ毎日、太陽が昇ると同時に起床して作業をしています。例えば、夏の場合には4時半ごろに起きて7時半まで3時間のガーデニングをしてから出勤しています。皆さん「大変だ、よくやるな」と言うのですが、私は毎日起きるのが待ち遠しいのです。草木は、本当に正直で嘘はつきません。そんなところにひかれてしまうのです。

ガーデニングは、「どのようなガーデンにするか」と構想を練ること、「新しい花を購入してどこに植えようか」と考えることなど、楽しくてしょうがないのです。本当に自分で言うのもなんですが、ガーデナーはよくばりだと思います。いくらやっても満足できずに、次は何をやろうと常に考えるようになります。

また、ガーデニングには終わりがありません。常に草木たちは成長し、様相を変えていくので、納得のいくガーデンにするためには、そのままにしておけないのです。私は、人工的なガーデンではなく、自然なガーデンになるよう心がけてガーデニングをしています。

思いを込めて手入れしたガーデンに、花が咲いて季節を感じた時、思いもかけない花が咲いてサプライズしたときには、すべてを忘れ、その情景に慕って心が癒されるのです。

それではここで、いろいろあるガーデンのうち、特に私が気に入っている姫沙羅林のガーデンについて紹介させてください。

姫沙羅林には、植木として育ててあった苗木が大きくなり、移植できなくなった80本の姫沙羅がありました。その中にまず私は、あこがれていた小川と池をビオトープで作ることにしました。自分のガーデンに小川を流すことが1つの夢だったので、まずはその夢を実現させることができました。そして、植木として格子状に植えられていた姫沙羅を自然の雰囲気にするため約半分に間引きました。さらに、約200坪ある林にインターロッキングで広場を作り、テーブルとイスを置いてのんびり過ごす空間を作りました。そこに座ってハーブティなどを飲みながら木陰で風を感じたときには最高の贅沢でこれぞ至福の極みです。



我が家の前方に田園、後方に富士山

姫沙羅林には、ワラビ、フキ、コゴミ、タラノメなどの山菜が繁殖しています。すべて自然の恵みで、春から夏にかけて収穫して食するのも1つの贅沢な夢の実現です。この他に、ニリンソウ、フタマタイチゲ、ヒトリシズカ、フタリシズカ、エンレイソウ、エビネ、クマガイソウなどの山野草を植えました。ビオトープの周辺には水生植物の花ショウブ、カラー、セリ、クレソンなどが植えてあります。

それから、林の一部には日が当たるゾーンを作ってテレビドラマで放映していた北海道の風のガーデンを模したナチュラルガーデンを作っています。

それ以外には、この地域に生息している珍しいサンショウバラの大木があります。最初は何かわからずいたのですが、引っ越してきた5月の下旬にピンクの一重のバラが一斉に咲いたのに遭遇したときには本当に感動しました。今では毎年5月下旬に咲くのを今か今かと楽しみにしているのです。このことは全国版の【ガーデニング誌ビズ】という雑誌にも掲載していただきました。

植物だけでなく、姫沙羅林には多くの野鳥や昆虫が集まってきます。野鳥で感動したのは、オスのカワセミが池の魚を取りに来た瞬間です。魚を取られたのはちょっと焦りましたが、あのきれいなカワセミを目のあたりに見た瞬間は、感動させられました。それから、多くのトンボが生息するようになり、チョウチョやカエルも、そして、野ウサギも見ました。

また、今後、この姫沙羅林に蛍が舞う日が来ることを夢見て、源氏蛍の幼虫とエサのカワニナを取り寄せてビオトープの小川に去年の8月に放流しました。今年の6月下旬頃に源氏蛍が乱舞する情景が実現できたら最高です。

最後に、私が属している「オープンガーデン富士宮」について紹介させていただきます。この会は、地元の約20のガーデナーが集まって活動しているグループ



姫沙羅林のビオトープの小川

です。オープンガーデンとは、ガーデンを開放してだれでも自由にみられる仕組みで、イギリスが本場だと聞いています。

私たちもガーデンを見るのが好きで、伊豆高原のオープンガーデンによく足を運んでいましたが、それをまさか自分がやるとは予想もしていませんでした。入会するきっかけは、知人の喫茶店に食事に行った際、オープンガーデンのパンフレットが目にとまり、興味をもってみると、「だれでも入会できるから入ったら」と誘われて2つ返事でOKしてしまったことです。

入会してから会員の方たちと知り合い、お互いに庭を鑑賞しながら話をすれば、すぐに仲間になって時間を忘れるぐらい話が弾み、お互いに花を分け合うような交流が自然にできたのです。その時に花を好きな人に悪い人はいないと実感しました。

オープンガーデンの期間は、4月から6月の3か月間、事前に連絡があった方にガーデンを開放して自由に見てもらおうのですが、5月の土日の1~2回は、全てのガーデンを連絡なしに開放するイベントを行っています。

初めてのオープンガーデンでは、何もわからなく想像もつかない状態で妻と「そんなに来ないだろう」と話していたところ、見学者が予想以上に多く、あわて驚きながら夢中になって妻と2人で昼食をとる暇もなく対応したのを覚えています。ガーデンを見に来てくれる人は、ほとんどが高齢の女性グループかご夫婦で、引っ越してから1年目で未完成なガーデンにもかかわらず、広くナチュラルなところにほれ込んでくれた方もいて一安心しました。

また、神戸や横浜の方が見に来てくれた時もありました。静岡市のオープンガーデンのグループが集団で来たり、地元の新聞社が取材に来たり、この6年間のオープンガーデンでいろんな経験をさせていただきました。

ガーデンを見に来て本当に花が好きな人は、初めての出会いであってもガーデニングという共通の合言葉で意気投合し、時間を忘れてガーデニングの話に夢中になることが素晴らしいと感じました。

今までに、多くの花愛好家との出会いがあり、私のガーデンを見て感動してくれると、より一層、私もやる気が出てもっといいガーデンを作ろうという励みになっているのです。これからも富士山を眺め、ガーデニングの技術を磨きながら、みんなが感動するガーデンを作る夢を私は見続けていきます。

—よこざわ けいいちろう

(一社)日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 技師長—